

平成27年度

事業報告書

社会福祉法人 宇多津町社会福祉協議会

平成27年度 宇多津町社会福祉協議会事業報告

1. 概況

急速な少子高齢化及び核家族化への進行等社会構造の変化に加え、転出入が多い本町の地域特性もあり、お年寄りを支える人的勢力の不足や地域の連帯感の希薄化により地域コミュニティーの弱体化が懸念される場所である。従前の福祉制度の枠組みだけでは、対応が難しい問題が残され、様々な形で町民生活に不安を生み出している。町社協においても事業の見直しや再構築が急務となっております。

このような中、社会福祉協議会では、町からの委託事業として「地域福祉推進事業」や「地域支え合い事業」、「ファミリー・サポート・センター事業」に取り組み、各種福祉施策の拡充を図ると共に、介護保険事業、障害者自立支援事業の充実を行い、地域住民の理解と協力を得て、明るい地域福祉を推進し「誰もが暮らしやすく。」「安心して快適な生活ができる。」福祉社会の実現を目指し、次の9項目の事業を重点に実施した。

- (1) 地域福祉の推進
- (2) 介護保険事業の充実
- (3) 障害者自立支援事業の充実
- (4) 生活困窮者自立相談支援事業の推進
- (5) 香川おもいやりネットワーク事業の推進
- (6) ボランティア活動の推進
- (7) 福祉関係団体等活動協力と連携
- (8) 法人運営の強化
- (9) その他福祉活動への協力

2. 事業経過報告

(1) 地域福祉の推進

① ふれあいいいきいきサロンの推進

町内の高齢者や障害者等、地域の中で孤立して閉じこもりぎみに暮らしている人たちが、いきいきと元気に暮らせることを目的としてサロン活動を行った団体に共同募金の配分を利用して補助を実施した。


年度毎の箇所数は次のとおりであり、27年度は4箇所増である。

年 度	箇所数
平成 2 2 年度	1 9
平成 2 3 年度	2 0
平成 2 4 年度	2 0
平成 2 5 年度	2 1
平成 2 6 年度	2 3
平成 2 7 年度	2 7

また、年 4 回のプログラムメニュー研修会を実施し、各サロンがより魅力的な運営ができるよう役立てた。

研修会名	実施日	参加者数
ちょっとドキドキ！ ルンルン♪バルーンアートに挑戦してみよう！！	平成 27 年 5 月 12 日(火)	39 人
音楽に合わせて心地よい運動 3B 体操体験でリフレッシュ♪	平成 27 年 9 月 18 日(金)	46 人
おいしいコーヒーでリラックス♪ ～ハンドドリップ教室～	平成 27 年 11 月 6 日(金)	30 人
近なものでできる応急手当	平成 28 年 3 月 8 日(火)	50 人

② 共生型サロンの推進

前年度に引き続き、毎月第 1・第 3 水曜日、地域で暮らす高齢の方も、子育て中の親子も、障がいのある方も、誰もが自由に集い交流できるみんなのサロン「とも  とも」の活動を行なってきた。

サロンでは、折り紙や音楽・体操、香川短期大学の学生との交流を行なったり、季節行事（流しソーメンと盆踊り、もちつき大会）では、卒園していった大勢の子どもたちの参加があり、子どもたちの成長を感じることができた。

誰でも自由に集える地域サロンの一つとして、「とも・とも」の活動が定着してきている。

【みんなのサロン 参加人数】 (人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
親	7	3	7	6	35	8	0	7	11	20	2	6
子ども	10	4	7	6	62	11	0	7	12	36	3	8
高齢者	20	14	17	17	25	17	19	18	21	22	20	16
V0・スタッフ	17	10	11	9	30	6	8	7	18	20	8	9
合計	54	31	42	38	152	32	27	39	62	98	33	39

③ 各種相談事業の実施

民生児童委員会、弁護士及び身体障害者相談員の協力を得ながら次の6種類の相談事業を実施した。

相談の種類	相談員	相談日	相談実績
一般相談	民生児童委員	毎週火曜日	1件
弁護士相談	安西弁護士	2カ月に1回	29件
身体障害者相談	県身体障害者相談員	第3金曜日	0件
介護相談	訪問介護員（ヘルパー）	月曜日～金曜日	192件
ボランティア相談	ボランティアコーディネーター	月曜日～金曜日	9件
電話相談	社協事務局	月曜日～金曜日	814件

相談件数は、電話相談以外は減少傾向にあるが、貸付についての問い合わせ及び日常生活に関する電話相談が、格段に増加している。

④ 生活福祉資金の効果的運用

県社協の委託事業として、生活福祉資金の貸し付け事業を実施したが、新規借入件数は、昨年度に比し概ね横這いである。緊急小口資金については生活保護を申請し、受給できるまでの間の支援であり、教育支援資金については、すべて母子家庭・生活困窮・不登校に対する支援が現状である。資金ごとの貸し出し状況は次のとおりである。

〈生活福祉資金貸付事業〉

借入資金の種類	年度末 件数	27年度中 新規借入件数	26年度中 新規借入件数
総合支援資金	16件	0件	0件
緊急小口資金	13件	12件	13件
臨時特例つなぎ資金	0件	0件	0件
教育支援資金	2件	4件	3件
福祉資金	11件	0件	0件
不動産担保型生活資金	0件	0件	0件
国民年金の任意加入を含む年金の貸付	1件	0件	0件
計	43件	16件	16件

⑤ 日常生活自立支援事業の実施

県社協の委託事業として、高齢者や知的・精神障害者で判断能力に不安がある人を対象に金銭管理・福祉サービスの手助けを行う日常生活自立支援事業を実施した。年度ごとの利用者状況は次のとおりである。

年 度	高齢者	知的障害	精神障害	その他	計
平成 23 年度	6	1	8	0	15
平成 24 年度	9	1	11	0	21
平成 25 年度	10	1	11	0	22
平成 26 年度	10	1	11	1	23
平成 27 年度	17	6	15	1	39

昨年度は、利用者が急増した。判断能力の低下等により、社会福協議会だけではなく、関係機関との連携した対応が求められている。また、一人暮らしで身寄りのない方も増えてきており今後、法人後見を進めていく必要がある。

⑥ 高齢者福祉サービス事業の充実

在宅の高齢者及び障害者の日常生活や自立に向けた取り組みを支援するために次の事業を実施した。

区 分	老人給食サービス事業	車椅子貸出事業	公衆浴場サービス	うたんぐら
平成 22 年度	5,067 食 (120 名)	42 名	101 名	5 名
平成 23 年度	4,936 食 (120 名)	31 名	1 名	4 名
平成 24 年度	4,870 食 (120 名)	29 名		3 名
平成 25 年度	4,785 食 (116 名)	41 名		3 名
平成 26 年度	5,096 食 (117 名)	40 名		2 名
平成 27 年度	4,919 食 (131 名)	39 名		2 名
備 考	毎週水曜日配食 (月 4 回)			毎週 3 回 月・水・金

〈高齢者見舞金事業対象者〉

区 分	一人暮らし老人 (80 歳 以上)
平成 22 年度	134 名
平成 23 年度	142 名
平成 24 年度	144 名
平成 25 年度	149 名
平成 26 年度	155 名
平成 27 年度	181 名

老人給食サービスについては、配食していただくボランティアの募集など、当日の配食に支障のないように努めた。車椅子の貸し出しについては、長期の貸し出しから、本来の利用目的である、短期の利用にシフトしている。

また、共同募金の助成金により、高齢者見舞金配布事業を実施し、80歳以上の一人暮らし高齢者に対し、3千円を民生児童委員の協力により配布した。

⑦ ファミリー・サポート・センター事業

地域の方が会員となって、一時的な子育てを助け合う有償ボランティア組織。

・平成27年度登録会員数、活動件数、援助活動内容と件数の内訳

登録会員数 (平成27年4月～ 平成28年3月末)	おねがい会員	166名	合 計 <u>287名</u>
	まかせて会員	89名	
	どっちも会員	32名	
活動実績 (平成27年4月～ 平成28年3月末)	援助活動件数の内訳		活動件数
	① 塾への送迎		234件
	② 放課後児童クラブへの送迎とその前後の預かり		65件
	③ 保育施設への送迎とその前後の預かり		872件
	④ 自宅・祖父母宅への送迎		179件
	⑤ 保護者の仕事のための預かり		7件
	⑥ 他の子ども学校行事の場合の預かり		3件
	⑦ 児童サービスへの送迎とその前後の預かり		47件
	⑧ その他		12件
	合 計		

・平成27年度研修会、交流会回数と内容

	回 数	参加人数	内 容
研修会	4回	127名	養成講座2回(坂出合同)・会員ミーティング2回
交流会	7回	346名	ともとも合同交流会・ファミサポ交流会
講演会	1回	54名	丸亀・坂出合同

前年度(26年度)の活動件数が、704件に対し、今年度は2倍以上の1,419件に増加し、昨年に引き続き子育て支援ニーズが急増している。登録時の研修会の時間数も昨年度より増やし、今後も厚生労働省が推奨する研修時間数に近づきたい。また引き続き預かり時の事故防止等についての講習会を実施したい。

(2) 介護保険事業(ホームヘルパー)の充実

① 訪問介護事業の充実

今年度は収入で 22.5%の増、利用者の延べ人数も 11%の増となっており事業としては安定している。今後は、一層のサービス向上と利用者の確保を図るとともに、高齢化する登録ヘルパーの退職に対応する人員及び事業拡大が図れる人材確保の継続が必要である。

(単位：千円・人数)

年 度	訪問介護事業収入	前年比	延べ人数	軽度生活支援事業収入
平成 22 年度	10,991	8.1%	358	1,122
平成 23 年度	11,571	5.3%	402	949
平成 24 年度	12,134	4.9%	360	923
平成 25 年度	9,711	▲20.0%	322	712
平成 26 年度	9,957	2.6%	380	1,195
平成 27 年度	12,200	22.5%	421	1,028

② 居宅介護支援事業の充実

居宅介護支援事業の利用者及び事業収入の推移は次のとおりである。延人数は、11.4%、事業収入は前年度比 17.2%である。これは、居宅介護支援専門員が 1 名増加して常勤換算数(1カ月の稼働時間 160 時間を一人とする)が前年度 1.4 人だったところ今年度 2.4 人となったためである。支援内容の主な内訳は、措置 1 名、入所 1 名、死亡 4 名、虐待疑い 2 名である。今後の課題は、居宅介護支援専門員が一身上の都合等で退職を余儀なくされ求人募集をした場合、現状では応募がほぼ皆無であり、人材確保に苦慮しており、有効な対策が急務である。

(単位：千円・人数)

年 度	事業収入	前年比	対象者数(延人)
平成 22 年度	4,471	▲12.7%	578
平成 23 年度	4,818	7.8%	585
平成 24 年度	5,973	24.0%	692
平成 25 年度	6,014	0.7%	781
平成 26 年度	5,086	▲15.4%	567
平成 27 年度	5,971	17.4%	647

(3) 障害者自立支援事業の充実

① 障害者福祉サービスの充実

居宅介護等が継続的に減少しているのは障害者保険から介護保険への移行や、施設入所が原因となっている。また、同行援護の著しい増加は、昨年までは認められていなかった定期通院が認可となったためである。各年度のサービスごとの収入の推移は次のとおりである。

(単位：千円)

年 度	居宅介護	移動支援	同行援護	難病患者等	計
平成 22 年度	1,942	393	0	0	2,335
平成 23 年度	2,478	209	0	18	2,705
平成 24 年度	2,403	525	0	207	3,135
平成 25 年度	2,467	880	39		3,386
平成 26 年度	1,906	675	30		2,611
平成 27 年度	1,421	301	431		2,031

(4) 生活困窮者自立相談支援事業の推進

① 包括的かつ継続的な相談支援

これまでの福祉制度は、高齢者、障害者、児童といった特定の対象者・分野ごとに展開されてきて、それぞれ実績を上げている。しかし、生活困窮に関する課題は、経済的な問題のみならず社会的な孤立や医療問題、DV、障害者などが折り重なって、複合的な問題を抱える。本人だけでなく世帯全体が困窮しており、全体を支援していくように取り組んでいる。相談実績は以下の通りである。

	年間合計 (人)	男性	女性	～ 10代	20代	30代	40代	50代	60～64 歳	65歳 以上	不明
27年度相談 件数(内訳)	34	17	17	0	2	8	7	7	0	9	1

② 生活困窮者支援を通じた地域づくり

生活困窮者が自立に向けた歩みを進めていくには、まずは自己有用感や自尊感情を取り戻すことが不可欠である。そして、自分の居場所や役割を発見し、人との「つながり」を実感できることも必要である。「つながり」とは、フォーマルにとらわれるのではなく、インフォーマルなものも重要である。福祉の枠組みを超えた取り組みも必要となる就労に導く支援はもとより、生活

困窮者の働く場や参加する場も必要になる。その際、生活困窮者の就労を、地域課題解決へ導く視点など生活困窮者支援という観点からの地域づくりをしていくことにほかならない。生活困窮者の方々は、特別な人ばかりでなく、ましては怠惰な方でもない。誰しもがなり得る可能性があり、突然社会や制度の狭間に落ちてしまう。支援を通して理解者を地域に増やしていく事で、支え合いの輪を拡げて、いずれ要支援者が困窮から抜け出して、支援者となる者も出てくる可能性もある。参加型包摂社会を創造していくことが重要である。

(5) 香川おもいやりネットワーク事業の推進

社会福祉法人施設と民生委員・児童委員とつながり、支援を必要とする方を、「地域でトータルにサポートする仕組み」をつくり、「香川型福祉でまちづくり」目指し、下記の会議を開催した。

第1回 香川おもいやりネットワーク事業 宇多津担当者会

日 時	場 所	会議内容	参加者
9 / 28	福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> ・生活困窮者自立支援法の受付について ・フードバンクについて ・おもいやりネットワークについて 	県社会福祉協議会 町社会福祉協議会 民生委員・児童委員 寿楽荘 いきいき荘 マイルドハート21 エコランド鶴多津

(6) ボランティア活動の推進

① ボランティア連絡協議会への参加及び協力

事務局として、毎月の定例会、総会及び研修会等に積極的に参加し、ボランティア活動を推進した。加入団体は、23団体となっている

② 福祉・ボランティア体験の推進

福祉・ボランティア体験としてうたづっこふくしセミナーの開催、ボランティア体験の実施、福祉体験学習、ボランティア銀行の運営を次のとおり実施した。

□ うたづっこふくしセミナー

	日 時	場 所	体 験 内 容	参 加 人 数
第 11 回	7 / 18	保健センター	中学生位までの児童・生徒を対象とした福祉体験セミナー	約 4 0 0 名

□ 宇多津北小福祉体験学習会

日 時	場 所	体 験 内 容	参 加 人 数
11 / 16	北小学校体育館	車いす体験 視覚障害者疑似体験	4 年 生 全 員 1 1 2 名

□ 夏休み中学生ボランティア体験学習

17の行事が延べ63日間行われ、550人がボランティアとして参加した。町や社協事業以外にも各種団体のボランティアにも参加している。今後も学校と連携を取りながらボランティア活動を推進していく。

	日 時	場 所	学 習 内 容	参加人数
1	7 / 1 9 他 2 回	JR 駅前清掃	駅前清掃ボランティア体験	3 0 3 名
2	7 / 2 2 他 4 回	福祉センター	老人給食配達ボランティア体験	2 0 名
3	7 / 2 1	県道 33 号線	さわやかロード清掃活動	1 9 名
4	7 / 2 7	サポートセンター	はぐはぐランド宇多津での乳幼児との交流体験	1 9 名
5	7 / 3 1	NPO メロディー	障がい児との交流	3 名
6	7 / 2 1 他 1 回	宇中美術室	高齢者のために絵手紙づくり	2 0 名
7	7 / 2 2 他 1 回	ユープラザ他	夏休み宿題お助け隊	1 0 名
8	7 / 2 2 他 4 回	宇夫階神社他	うたづ寺子屋ボランティア	2 0 名
9	7 / 1 8	保健センター	うたづっこふくしセミナー	2 8 名
1 0	7 / 1 9	社会福祉協議会	日曜サロン・日曜市の手伝い	6 名

1 1	8 / 2 0	保健センター	親子クッキングの手伝い	7 名
1 2	8 / 2 7	ユープラザうたづ	ピッコロショー腹話術の手伝い	7 名
1 3	8 / 3	NPO あいあい	夏祭り手伝い高齢者との交流体験	2 名
1 4	8 / 2 1	ドリームパライス	こどもとのうどん作り体験	1 6 名
1 5	7/21~ 8/31	中学校	校内プランタンの水やり	3 3 名
1 6	7 / 2 2	中学校	新体育館周辺の草抜き	3 2 名
1 7	8 / 5 他 1 回	やすらぎプラザ	みんなのサロン「ともとも」 高齢者、乳幼児と交流	5 名

延べ：63日 延べ：550名

□ ボランティア銀行の運営

ボランティア銀行の預金額は、昨年の 883,463 ハートから 988,506 ハートへ大幅に増加しており、小・中学生のボランティア活動の輪が広がってきている。今年度も、1 ハートを 0.5 円で換算し、預金額 442,000 円の内 300,000 円の払い戻しを行い、残額の 142,000 円については、小・中学校応援プロジェクト募金より支出した。

学校名	預金額(ハート)	払い戻し額(円)
宇多津小学校	365,048♡	137,000
宇多津北小学校	470,208♡	226,000
宇多津中学校	153,250♡	79,000
合 計	988,506♡	442,000

③ 災害ボランティアセンター運営の推進

防災研修会を開催した。

詳細は次のとおりである。

	日 時	場 所	講 演 内 容	参加人数
第 1 回	2 / 1 1	保健センター	災害ボランティアセンター 運営研修会	60名

(7) 福祉団体等活動協力と連携

① 民生児童委員協議会との連携

社会福祉協議会の運営において、民生児童委員との連携・協働は重要であり、相談事業をはじめとして、思いやりネットワーク事業、高齢者・一人暮らし老人の情報の共有、老人給食サービスの配食、高齢者見舞金配布事業、共同募金活動、生活福祉資金貸付業務等において協力を得て事業を実施した。事業ごとの実績については、他の項目で記載した。

② 老人クラブ・身体障害者協会への参加協力

老人クラブ・身体障害者協会の事務局として、総会・定例会、各種行事への協力及び文書管理を行った。

③ 福祉団体への援助

ボランティア連絡協議会加盟の団体へ各種補助金等の情報提供を行った。

(8) 法人運営の強化

① 自主財源の確保

社協会員の増加と香典返し等寄付金の使途の明確化を行う中で自主財源の確保強化に努めた。年度ごとの状況は次のとおりである。

(会員数の推移)

年 度	社協役員	団体会員	個人会員	合計	法人会員	会費 円
平成21年度	25名	489名	60名	549名		137,800
平成22年度	25名	552名	69名	646名		172,600
平成23年度	25名	630名	193名	848名		221,000
平成24年度	24名	709名	125名	858名		226,000
平成25年度	24名	863名	73名	936名		242,200
平成26年度	25名	813名	188名	1,026名		264,700
平成27年度	25名	982名	1,204名	2,211名	67法人	615,100

(寄付金の推移)

年 度	香典返し		一般寄付		合計金額
	件 数	金 額	件 数	金 額	
平成22年度	24	1,145,000	10	146,261	1,291,261
平成23年度	20	720,000	11	135,316	855,316
平成24年度	22	928,000	9	111,000	1,039,000
平成25年度	20	680,000	7	108,000	788,000
平成26年度	17	350,000	10	453,000	803,000
平成27年度	8	285,000	7	117,000	402,000

会費は、法人会員の増加に努め、昨年度を大きく上回る会費を集めることができた。

寄付金については、香典返し・寄付金ともに減少しており、より一層、広報(社協通信)で使い道を明確にし、社協の事業への住民の理解を広める必要がある。

② 広報・啓発活動(情報誌 社協通信の発行)

社協事業を広く町民に周知する目的で情報誌「社協通信」を毎月発行し町広報と同時に配布した。

③ 各種研修会等への参加

社協職員の資質向上を目指して県社協、県施設協会等の研修会に参加した。特に、日常生活自立支援事業では、利用者が大幅に増加にともない、精神障害者に対する専門知識も必要になってきている。

今後も香川県社会福祉協議会等が開催する研修について、積極的に参加し、専門知識の取得を図っていく。

④ 各種資格の取得

生活困窮者自立相談支援事業の開始により専門知識を要する相談件数が増加している。より良い相談援助を行うため、社協においても福祉士資格を1名、精神保健福祉士資格を2名が取得した。

(9) その他福祉活動への協力

① 共同募金運動への協力

宇多津町共同募金委員会に協力して、街頭募金運動・歳末たすけあいチャリティ即売会等の募金活動に協力し、目標額4,160,000円に対し4,218,849円

を集め、県共同募金会に送金した。又、期間拡大による募金活動「宇多津町内小・中学校応援プロジェクト募金」を1月1日から3月31日まで実施し、目標額800,000円に対し953,424円を集め県共同募金会に送金した。26年度の募金額を上回ることはできなかったが、11年連続で募金目標額を達成した。本町への助成金は地域福祉推進事業として、2,484,040円、小・中応援プロジェクト事業として1,407,973円であり以下の事業を実施した。災害見舞金は、今年度該当がなかった。

社会福祉協議会事業

番号	事業名	事業内容	助成額
1	ふれあいいきいきサロン事業	ふれあいいきいきサロン活動助成費用（1団体年間1.2万円～2万円）	280,000円
2	ボランティア活動推進助成事業	ボランティア活動保険料 ボランティア連絡協議会活動費用	285,040円
3	一人暮らし高齢者見舞金 配布事業	80歳以上の1人暮らし高齢者のお見舞金費用	310,000円
4	心配ごと相談事業	弁護士相談費用	160,000円
5	日常生活支援事業	自宅にお風呂のない高齢者にお風呂を週3回提供する事業の実施	72,000円
平成27年度 社会福祉協議会事業 助成額合計			1,107,040円

各種団体への助成金

番号	事業名 / 助成先	事業内容	助成額
1	子育て支援推進事業 サポートママ「モコモコ」	核家族化が進む新都市を中心に、地域の人が交流できるイベントを開催し、交流の場を提供する。	190,000円
2	身障者外出支援事業 身体障害者協会	身体障害者の外出を支援することにより、社会参加を促し、会員同士の親睦を深める活動	30,000円
3	施設訪問事業 (ゆかいな仲間たち)	町内の福祉施設の訪問し、レクリエーション活動、体験交流活動を行い、高齢者との交流を深める	40,000円

4	障がい児・軽度発達障がい児支援事業 (親子クラブわくわく)	同世代の子どもと同じことができないという悩みを抱えている家庭に専門医を講師に迎え研修会を開催する。	78,000 円
5	母子家庭等支援事業 母子寡婦福祉会(ひまわり会)	ハイキング、クリスマス会等を開催することで、ひとり親家庭の親子の絆を深め、就職活動にも結び付ける。	100,000 円
6	子育て支援事業 (あおやま保育園)	災害が訪れる前に万全の準備に心がけ防災対策に備える。防災用リアカー、避難靴、ままごとセット購入費用	75,000 円
7	子育て支援事業 (青山幼稚園)	園の行事で使える綿菓子器を購入し子供たちの遊びに活用する。防災クッションの不足分を購入する。	139,000 円
8	環境衛生推進事業 (宇多津町婦人会)	町民にゴキブリ団子を配布することにより、衛生管理に対する意識を高め、地域の衛生環境を整える。	160,000 円
9	障害者ふれあいサポート事業 (カノンの会)	精神に障害を持つ人の居場所で、野菜作りを行うことで日中活動の機会を増やす。外出支援費用	100,000 円
10	子育て支援事業 (香川短期大学附属幼稚園)	合奏を通してひとつの曲をみんなで作り上げる喜びや協力する力を養う。楽器購入費用	162,000 円
11	青少年育成事業 (ピースのおうち)	孤立しやすい家庭の交流を図り、信頼のある地域づくりの取り組み。	90,000 円
12	手話ボランティア養成事業 (手話サークルにここ)	月に2回手話サークルを開催し、会員のレベルアップを行う。	63,000 円
13	障がい児支援事業 (NPO 法人メロディ)	障がいを持つ困った感を抱える人や保護者や彼らを支えようとする周りの人たちに情報を提供する講演会や勉強会を開催する	150,000 円
平成27年度一般募金助成額 合計			1,377,000 円

小・中学校応援プロジェクト募金助成金

番号	事業名 / 助成先	事業内容	助成額
1	あいさつの花を育てて、宇多津の町を花いっぱいにする活動 (宇多津小学校)	あいさつを啓発する植木鉢を作成し、「あいさつの花をさかせよう」を合言葉に、直接児童が地域住民の皆様に植木鉢を持っていき、募金のお礼と、あいさつをひろげようとする気持ちを伝える。	23,800 円
2	「げんき・きれい・いのち」 カルタの作成事業 (宇多津小学校)	児童が自分たとの生活を振り返り、児童自身が普段気づいたことを絵札、読み札にしたカルタを作成することによって、継続的に生活習慣や規範意識を見直し改善を行う。	199,152 円
3	自転車を安全に乗るための自転車用交通安全シートの作成・配布事業 (宇多津小学校・宇多津北小学校)	3年生以上の児童に、自転車の左側通行の徹底や交差点を渡る際の注意等をわかりやすくデザインしたゴム製シートを作成し、自転車に装着することで、常に安全運転を意識できるようにする。	129,600 円
4	いじめ撲滅講演会開催費用 (宇多津北小学校)	「いじめ撲滅」や「生命尊重」をテーマに、登天ポールさんによる「いつも心にマウンテン」講演会を開催した。	110,000 円
5	自転車左側通行の注意喚起看板の設置事業 (宇多津中学校)	電柱に安全運転の啓発看板を設置することで、視覚的な注意喚起を図る。 中学生だけでなく宇多津町全体で交通安全意識の高揚を図ることができ、町内の交通安全防止に大きくつながる。	594,000 円
6	ボランティアバッジ作成事業 (宇多津中学校)	ボランティア活動やあいさつ運動、授業態度の良い生徒にグッドカードを配布し、50枚たまったら生徒にボランティアバッジを渡すことによって、ボランティア活動善行を推進する。	30,000 円
7	ボランティア銀行事業 (社会福祉協議会)	ボランティア銀行は、ボランティア通帳にハートが貯まっていくのを目に見える形で楽しみながらボランティア活動に取り組めるように応援しており、小・中学生が地域のボランティア活動に参加することによって地域の人との交流を深め、宇多津町が明るく元気な町になる。	321,421 円
平成27年度プロジェクト募金助成合計額			1,407,973